

2014年9月5日発行

11月24日(月・祝振休) 午後1時から  
きらきら基金 第4回助成事業を 行います。^^



場所は、東員町保健福祉センターです。

今回は、「団体への助成」「協働事業への助成」の  
2本立てです。「100円寄付投票」「募金箱寄附」  
「団体プレゼン」「活動報告」もあります。  
みんなでさそいあって、どうぞおいでくださいね。

このような方たちが登壇されます。^^;

- 団体助成応募 市民活動団体 「プレゼン・展示」 10~15団体
- パートナー事業助成応募 市民活動団体 「プレゼン・展示」10団体
- これまでの助成先 市民活動団体 「中間報告」 20団体
- このまちの募金箱ファンドレイザー 「寄附感謝状贈呈」50個人・団体

このまちには、身近に、たくさんの市民活動団体があります。  
きらきら基金ではそのような団体取材させてもらい、ホーム  
ページで紹介しています。今、117団体を掲載しています。

でも、ほんとうはもっともっとたくさんの団体がこの地域で  
活躍し、まちでのくらしをいろいろな形で支えられます。  
ただ、顔写真を出すのが恥ずかしいとか、私たちの取材力が  
追いつかなかったりなので、少しずつ増やしていきます。



## このまちの、身近な市民活動を、応援してみませんか

ボランティアでこのまちを支えている方たちを  
尊敬し、感謝し、期待しています。^^;  
少しでも、応援の気持ちを届けたいと思い、  
きらきら基金の助成事業をはじめました。



一ヶ所あたりは少額ですけど、  
これまでに50団体、3事業に、合計で、  
908,100円の応援を届けさせていただきました。  
全て、331口のご寄附で助成させていただきました。  
ありがとうございました。



この中には、カエル・こぶたの募金箱の  
18個(口)で集めていただいた70,231円と、  
助成当日の会場の皆様の100円単位の寄附投票で、  
第1回(2012.6.16)に、67名(口)、87,500円、  
第2回(2013.3.9)に、98名(口)、121,100円、  
第3回(2014.2.22)に、80名(口)、109,800円  
ものご寄附が入っています。

今回で第4回目になります。  
みなさんもいっしょに、このまちの身近な市民活動を  
応援してみませんか。

助成当日、会場で、117のホームページでの紹介団体から、  
10~15ぐらいの団体市民活動団体が、勇気を出して、前に出て、  
自分たちの団体について、いっしょうけんめい語ります。

それを見て、ここを応援したいというところに、  
100円単位で寄附投票してください。  
その投票結果を、一定の規則で集計して、その比率にそって、  
「事前に用意した助成金を分けた金額」と、「寄附投票された金額」とを、  
その団体に助成します。



これまでの助成した感じからすると  
だいたい、1万円から2万円のあいだの額が、  
プレゼンした団体に助成されています。  
みなさん、どうぞ当日おいでいただき、  
みんなでこのまちの市民活動団体を応援してくださいね。

## 「市民活動応援☆きらきら基金 第4回助成事業」

日時：平成26年11月24日(月)  
午後1時より6時まで

場所：東員町保健福祉センター  
(東員町役場北隣り)

桑名員弁地域の、身近でいろいろな分野の市民活動団体に、少額ですが助成金を届けます。

たくさんの市民活動が少しでも元気に活動されることで、まち全体が元気になるように、いろいろな方たちからの応援の気持ちを、市民活動をしているみなさんに届けます。

主催：市民活動応援☆きらきら基金運営委員会  
特定非営利活動法人 みえきた市民活動センター  
特定非営利活動法人 生ごみリサイクル思考の会  
特定非営利活動法人 いなべこども活動支援センター

後援：東員町、東員町社会福祉協議会  
三重県、桑名市、桑名市社会福祉協議会  
いなべ市、いなべ市社会福祉協議会  
木曾岬町、木曾岬町社会福祉協議会、まちのファンクラブ

助成：日本郵便株式会社 年賀寄附金



13:00-13:30 開場 寄附セレモニー  
13:40-14:00 開会セレモニー・進行・寄附投票説明等  
14:00-15:00 助成団体プレゼン(10~15団体) / 募金集計  
15:00-15:30 寄附投票・休息・交流タイム  
15:30-16:30 パートナー事業プレゼン・講評(10事業) / 寄附投票集計  
16:30-17:20 助成事業報告・アピールタイム / 助成金準備  
17:20-18:00 助成金授受

### 市民活動応援のための「ご寄付」を、募集中です

事業の主催者のひとつである「みえきた市民活動センター」は、三重県より公益認定を受けている認定特定非営利活動法人です。直接口座に振り込んだ寄附金では、3000円を超える金額の半分弱ほどが、寄附の領収証明証をそえて、個人が確定申告することで、所得税納税額の一定の範囲で還付されます。

振込先口座名  
市民活動応援☆きらきら基金  
口座番号 ゆうちょ銀行  
00800-8-198866

市民活動応援☆きらきら基金では、まちの市民活動団体を応援する「助成の原資」のご寄附を募っています。応援してみようという方は、「助成事業当日(11/24 東員町保健福祉センター)へ寄附投票においでいただく」か、「お近くの募金箱にご寄附いただく」か、「上記口座に寄附金をお振り込み」くださいね。

## 郷土史家 西羽晃氏の歴史寄稿

幕末・維新の桑名藩シリーズ 40

その後の松平定教

前回は述べましたように、明治2（1869）年9月20日に松平定教が桑名藩知事に任命されました。最後の桑名藩主です。その頃は揖斐川沿いの新御殿（現在の吉之丸）に住んでいましたが、明治3年4月19日に従来の藩主御殿である三之丸御殿（現在の市営駐車場付近）に移りました。明治4年7月14日に「廃藩置県」が実施され、定教は藩主の地位から退き、政府の命令で東京に住むことになり、同年9月7日に桑名を発って同月18日に東京へ着いています。住んだ場所は旧桑名藩下谷七曲り屋敷（浅草）でした。廃藩後も松平家屋敷として使用が許されました。

定教は旧桑名藩士の駒井重格らとアメリカ人ブラウンから英語を学びました。しかし、明治5年9月に東京のブラウン塾は閉鎖となり、ブラウンは横浜へ移ったので、定教たちも横浜伊勢山宮崎町新松屋伊勢太郎方に寄宿し、横浜市学校でブラウンの教えを受けたようです。ブラウンは横浜の自宅で私塾を開くことになりましたが、10人の生徒に1人に毎月10円の月謝を要求されました。合計して毎月百円が必要でした。定教はじめ旧桑名藩士も学ぶことになりましたが、資金がありません。そのため平松屋（金子）寅吉が毎月百円を提供してくれました。彼は桑名藩の飛び地の柏崎の出身で、横浜で事業家として成功した人物です。

明治6年7月30日に定教は松平家伝来の「集古十種板木」（85冊、1439枚＋題板10枚）を政府へ献上したいと申し出ました。しかし、政府はとくに必要でもないし、膨大な量なので運送・保管に困難だと断りました。現在、この板木は桑名市の鎮国守国神社に所蔵されて、国の重要文化財に指定されています。

明治6年9月に横浜山手町211番地のブラウン自宅で塾が開かれました。ブラウンはキリスト教の牧師でもあったので、英語の他にキリスト教も教えました。政府は旧大名の子弟に外国へ留学させることを勧めましたので、定教もアメリカへ留学することになり、ブラウン塾は閉鎖されました。留学は自費のため、平松屋が資金援助したのだらうと私は推測しています。

定教は留学に先立ち、明治7年7月に政府の許可を得て、桑名へ戻り、義母の珠光院貞姫を見舞ってから、京都大阪を巡っています。そして同年11月20日に定教は駒井重格を連れて横浜港から旅立ちました。留学先はニュージャージー州ニューブランウィック市のラッカーズ大学です。ここで定教は理科を学び、駒井は経済学を学びました。

留学中のことはよく判りませんが、明治11年12月8日に帰国し、13年には外務省イタリア公使館勤務となっています。16年2月4日に、山岡鉄太郎の2女・鈴子と結婚しました。17年に子爵を与えられ、式部官となっています。30年に退職し、正四位を与えられ、この年に貴族院議員になっています。32年5月21日に享年43歳で亡くなり、東京染井墓地に葬られました。子どもは1男3女が生まれましたが、長女の栄子のみが成長し、松平定敬の息子・定晴と結婚し、松平家が継がれました。

- 参考文献 「松平定教家記」（国立公文書館所蔵）  
「公文録」（国立公文書館所蔵）  
「桑名藩御触留」（西尾市立岩瀬文庫所蔵）  
神埜『柳本通義の生涯』（共同文化社 1995年）  
西羽晃「維新の桑名藩を導いた女性—珠光院貞姫—」  
（『桑名市博物館紀要』第6号 2006年）  
「松平定教墓碑銘」（染井墓地）